

～**観光ガイドマップ解説**～

# 宿場町 平福

## 沿革

今に残る町並みは、江戸時代初期池田氏により城下町として整備されました。一国一城令による利神城廃城のため城下町としての歴史は短かったが、陣屋や鳥取藩本陣が置かれ因幡街道最大の宿場町として発展しました。南北1.2kmの区域300戸余りの家の約8割に屋号がつく商人の町となりました。昭和初期まで因幡街道および佐用の中心として繁栄しました。旧街道沿いにある連子窓と千本格子を持つ古い家並みと、佐用川沿いの石垣上の土蔵群が、往時の面影を伝えています。

## 歴史

- 元弘年間
内海修理亮が利神城に居城すると伝えられる。
- 貞和五（1349）年
別所敦範が豊福荘から田住荘へ移り、利神城に拠ると伝えられる。
- 天正六（1578）年
秀吉の命をうけ、山中鹿助幸盛が利神城に侵攻、別所氏と戦ったと言われている。
- 慶長五（1600）年
池田出羽守由之が佐用郡二万二千石を領し入城する。城の大改修に取り掛かる。
- 慶長十（1605）年
池田輝政、利神城天守の破壊を命ずるという。
- 元和元（1615）年
池田輝興、佐用郡2200石を領する。（平福藩）このころ街道筋の町屋がほぼ完成したとされる。
- 寛永八（1631）年
輝興、赤穂に移る。利神城廃城。その領地は山崎藩・池田輝澄の所領となる。これより宿場町としての道をあゆむ。

## 解説

- 宮本武蔵初決闘の場
慶長元（1596）年、武蔵13歳のとき、新当流有馬喜兵衛の「何人なりとも望みしだい手合わせいたすべし、われこそ日下無双兵法者なり」という高札を見て初めての決闘をいどみ、一刀のもと倒したといわれています。五輪書序文の一節の碑があります。

- 六地藏・刑場跡
金倉橋の西側は、江戸時代の平福藩刑場と伝えられます。元禄9(1696)年に供養のため建てられたと言う六地藏と「南無阿弥陀仏」の念仏碑があります。

- 川端風景
平福は、慶長・元和年間（1596～1623）に城下町として現在の街なみが形成されましたが、わずか30年でその用を終えました。その後、経済的・文化的な繁栄に伴い、因幡街道随一の・宿場町として生まれ変わりました。歴史の流れに従いその役割も終え、今は清閑なたたずまいのなかにその面影を残しています。連子窓や格子戸の家並みはもちろん、佐用川沿いの石垣に並ぶ川座敷、土蔵群は平福ならではの景観として特に有名です。

- 瓜生原家
享保年間に津山から移り住み、代々「吹屋」という屋号で昭和の初め頃まで鑄物業を営んでいました。家屋は切妻越しの屋根を初め、大屋根の煙り出し、軒下の日除け目隠し、潜り戸と呼ばれるくぐり戸付き上げ大戸、ブッチョウ造り、出棺口、格子など町家の特色をそなえています。

- 天満神社
平安前期に学者・政治家として活躍し、今は学問の神として有名な菅原道真が祀られています。毎年6月中旬に夏祭、10月中旬に秋祭が行われます。